

# 協会 ニュース

〒171-0031 東京都豊島区目白 3-5-11  
TEL 03-5996-8511 FAX 03-5996-9585  
<http://www.jja.or.jp/> Eメール info@jja.or.jp

第20巻第230号  
平成26年1月30日発行

## HEADLINE

### ◆国際人に学ぶ日本人の生き方とは

平成25年10月14日(月)塾の日シンポジウムにて「国際人に学ぶ日本人の生き方」と題して、国際政治学者で参議院議員の猪口邦子氏の基調講演がありました。国際人であるための4つの基準とは何か？母国語でないもう一つの言語を身につけることの意味など、興味深い内容です。全編ノーカットの講演録です。ぜひご覧ください。

### ◆会長年頭所感

公益社団法人全国学習塾協会会長・安藤大作より年頭のご挨拶を申し上げます。



### ◆その他の項目

●JJAインフォメーション 学習塾講師検定/学習塾認証制度/消費税引き上げに伴う注意点/経済産業省からの協力要請●プライバシーマーク情報 ほか

# 年頭所感

平成26年1月1日

公益社団法人全国学習塾協会 会長 安藤 大作

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えることと存じます。旧年中は一方ならぬご高配を賜りまして誠にありがとうございます。また、平素より、当協会の諸活動に対し、ご支援ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年春に特例民法法人から公益社団法人全国学習塾協会に移行して初めての新年を迎えました。昨年一年はとにもかくにも公益認定・公益社団法人移行に全霊を傾注して参りました。内閣府には、公益法人の「背骨」であります公益目的事業にいままでの多くの事業を認めていただき、移行記念式典には下村博文文部科学大臣をお招きして盛大にその門出を祝うことができました。また、私事ながら7月にははからずも協会会長の重職を拝命し、まさしく光陰矢のごとく約半年が駆け過ぎていった感がございます。



そして、明けて平成26(2014)年—。

年頭にあたって、とりわけ感じますのは社会の変化の速さです。少子高齢化、ITの高度化、グローバル化、そして教育イノベーション。TPP、サービス業の貿易商品化、環境対策など本格的なグローバル社会が始まり、国境を越



た競争が身近になりつつあります。そのため技術力や創造性、多様性などを有する優れた個人や企業が求められる時代になってきました。特に天然資源の少ない日本にとって、人材育成はこれまで以上に重要なファクターになっています。

しかも、国際競争力に勝てる人材を育成するために、新しい教育が必要になっています。文部科学省



では小学校英語の教科化、大学入試制度改革、土曜教室など次々に革新的な施策を打ち出しています。そして、学習塾にも連携の手を差し伸べています。

この変化に、学習塾さらに民間教育業界はどう対応したらよいのでしょうか。

先日、ある勉強会において、国際成人力調査について知る機会がありました。この調査は10代後半から60代までの成人対象のスキル調査で、「読解力」「数的思考力」「ITを活用した問題解決能力」を測る国際調査です。調査によると、日本はいずれのスキルもOECD平均より高く、参加国中で第1位でした。しかし、興味深いことは、日本はスキルが高かったにもかかわらず労働市場においてそのスキルを活用できておらず経済成長率が低いということでした。反対に、米国はいずれのスキルも参加国中14位以下で、かつOECD平均以下であるにもかかわらず日本よりも経済成長率が高いのです。

この違いは、米国の成人のもつ「読解力」「数的思考力」「ITを活用した問題解決能力」以外の「知識」、「コミュニケーション能力」、「交渉力」などの高さだと専門家は言います。さらに米国は一つ一つのスキルは低くてもそのスキルが互いに合わさって産み出される相乗効果で総合力が高くなっているとも言います。日本のそれは米国より低いというのです。

本格的なグローバル社会が始まり、国境を越えた競争が始まっています。

人材育成はこれまで以上に重要なファクターになっています。その人材育成の初期段階を担っているのが、私たち学習塾です。

近い将来にやってくる社会の変化、人材育成のゴールの変化に私たちも自身も変化・成長を遂げ、準備しておく必要があると思います。

そして、公益社団法人全国学習塾協会は、世界において勝つための人材育成を担う民間の教育資源の支援に努めて参りたいと思いますので、皆様方におかれましてはそうしたご理解のうえで当協会にお力添えいただければ幸いです。



# 共に未来を考える！塾の日東京2013

テーマは、『未来—塾と子供と教育と、日本と世界と我々と—LAST 25YEARS NEXT25YEARS』——海外留学生や国際人の視点から日本人や若者を考えるシンポジウム・・・2回連載の後半です！

当協会では、学習塾が社会に正しく認識され信頼されることをめざして、協会設立とともに「塾の日」を10月9日に制定するとともに、学習塾と私学・企業・消費者の皆様がともに学習を通じて未来の人材育成を図ることを社会にアピールする象徴的なイベントとして「塾の日シンポジウム」を毎年主催しています。

平成25年10月14日（月）——。

第1部・塾の日記念式典(前号に掲載)に続いて、第2部・シンポジウムならび&基調講演、第3部・新睦交流会が行われました。

## 第2部

### シンポジウム&基調講演

第2部は午後2時50分から、「シンポジウム 国際人に学ぶ日本人の生き方」と題し、塾生に聞く国際化に関するアンケート調査結果報告、海外留学生に聞く、そして基調講演の盛りだくさんの内容となりました。

第2部は、協会常任理事の仲野十和田実行委員の司会で進められ、井原大平実行委員より興味深い国際化に関するアンケート調査結果の報告がありました(詳細は協会webサイトでご覧いただけます。)

続いて、海外留学生が色鮮やかな民族衣装で登壇しました。パンディ ヘンプロパさん(ネパール・女性)は、東京農工大学大学院国費留学生(農林社会科学専門博士課程卒業・現、



同大学研究員)、セボンセシメ バクミナさん(ベナン・女性)は、筑波大学大学院国費留学生(システム工学専門課程)、サカザデ マシドさん(イラン・女性)は、筑波大学大学院国費留学生(体育科学専門課程)の御三方です。「国際人から学ぶ日本人の生き方」の前半は海外留学生からそのヒントをいただきました。

### セボンセシメ・バクミナさん

ベナン共和国出身

みなさんこんにちは。

私は、西アフリカのベナンから来ました。ホントに遠い国です。飛行機で18時間くらいかかります。ベナンからバリは、6時間くらい。バリから日本は12時間くらい。それが一番簡単です。でもいろいろな国でも、時間は長くなりますね。ベナンはナイジェリアの隣の国です。面積は日本の3分の1です。すごく小さい国です。人口は900万人です。

ベナンについて、一番きれいな事は、自然です。私はベナンの自然が大好きです。日本の自然も大好きです。実は、私の国の自然は



セボンセシメ・パクミナさん

すごくきれいです。季節について、4つの季節がありますけど、日本みたいではありません。春・夏・秋・冬ではなくて、雨季と乾季です。雨季は2つあります。小さいのと大きい。乾季も小さいのと大きいがあります。

ベナンの学校制度について話したいと思います。小学校は6年間。中学校は4年間。高校は3年間、全部で13年です。学校で子供達はかわいいけど、時々いじめがあります。でもベナンで、本当にいじめが問題ではありません。笑いながら、すぐ忘れます。日本に来て、いじめは問題と聞いた時、本当にびっくりしました。ベナンで、それはあんまり問題ではありません。

ベナンの経済は農業です。コットンとかパイナップル、トマトはすごく人気があります。ベナンの「シャバタ」も人気があります。日本へベナンのシャバタを輸出します。化粧品とか石けんとか、色々な物を作るために、ベナンのシャバタを日本人が使っています。

「なぜ、日本にきましたか？」そんな質問をいつも外国人に、日本人がしますね。実は私は子供の頃に富士山の絵を見たとき、きれいだなと思いました。その時から日本に行きたいと思いました。富士山に登るために。でも父はいつも日本に行く前に「日本語がわからないと無理だよ」といつも言いましたから、日本語の勉強を始めました。私は去年の10月に、筑波大学の博士課程に入りました。まだ、

富士山に登ってませんが、来年登りたい、是非是非。今運動しています。私の専門は社会システムマネジメント。それは、ちょっと難しいけど、簡単に説明すると、どうやってコンピュータとか色々なテクノロジーを使って、生活を簡単にするかです。

私は国へ帰ると、自分の会社をつくりたいと思います。それは、私の一番大きなチャレンジです。日本に来て、生活は本当に違います。私の国と全然違います。天気とか季節、食べ物、ずいぶん違います。でも一番驚いたものは、年をとった人の生活。びっくりしました。ベナンで年をとった人はあんまりやりません。みんな家にいますから、町で買い物とか仕事をする事、あんまりない。でも、日本に来て「え〜」びっくりしました。そんなに年をとっている人が掃除をしています。本当に大きなショックでした。いつも手伝う気持ちがありますけど、みんな「いやっ、大丈夫です」といいました。本当にそんなことを私の国の人たちに伝えたいと思います。おじいさんとか、おばあさんはそんなに、部屋をかたづけける人ではなくて、人生を続ける人です。

あと今日は、日本人の生徒達に、ひとつの伝えたい事があります。私達、留学生とか外国人は、本当に日本人とたくさん話したいけれど、言葉の問題もありますし、あと、時々恥ずかしい気持ちもあります。どんな言葉でも、私の日本語はまだまだですけど、がんばっていますから、みなさんとたくさんしゃべって、色々な国の経験をもらって、本当に大きなステップにしたいです。他の国の関係のために。ご清聴ありがとうございました。

### サカザデ・マシドさん

イラン出身

みなさん、こんにちは。



サカザデ・マシドさん

私は、マシドです。イランから参りました。2年前に日本に来ました。私は、筑波大学の体育科学専攻博士課程の2年目です。実は日本に来ている主な理由ですが、私達の研究室では、高齢者の健康について、研究をしています。ご存じの通り、日本の寿命はとても長く、研究者達は高齢者達の健康を促進するために非常に力を入れています。そして、より経済的負担が少なく快適に暮らす事ができます。

日本人と日本の大学について、私が好きなところは、彼らが何かをしたい時は、時間がかかりますが、一生懸命取り組み、小さなミスもしないところです。他に伝えたいことは、市役所に書類を持っていった時はスタッフがとても親切で、すばやい対応をしてくれます。私達の事をとても丁寧に助けてくれます。

それでは、イランの「エデュケーションシステム」について話したいと思います。イランは、小学は5年です。中学は3年です。高校は4年です。トータルは12年です。そして、私の国も「いじめ」の問題はありません。

最後は、日本の学生の皆さんに、私からメッセージがあります。

「たくさん勉強して下さい。机の上の勉強ばかりではなく、広い世界を見て下さい。そうですね！外国を旅行するとか、海外留学などです。とても広い視野で勉強をすることができます。」以上で発表は終わります。

ご清聴ありがとうございました。

## パンディ・ヘンプロパさん

ネパール出身

みなさん、はじめまして。8年前、ネパールから参りました、パンディと申します。

東京農工大学で、博士をとって、今「毒物」研究をやっています。ネパールで、一番自慢するものは、世界で一番高い山、皆さん知っていると思います。8,848 mの高さの山です。その8千mより上の山は世界で10個あります。でもその中で、8つはネパールの方にありますから、ネパールは「ヒマラヤの国」とも言います。アジアの方で、インドと中国の間の小さい国です。飛行機で行くと10時間かかります。その遠いところから日本に来たのは、勉強のためです。「ネパール」発展中の国から、「日本」この素晴らしい国に来る。それでも、勉強のため。夢でした。

人口2,500万人、アジアでの貧しい国のひとつです。ネパールから高等学校の教師、最愛の家族とも別れて日本に来ました。ネパールの経済で、一番は、人口約80%が従事している農業。みんなの質的向上を図るのが私の研究です。幸いにも、希望する農業大学の研究会にも受け入れられ、厳しい反面、理解できるまで、優しく指導して下さいる先生にも恵まれ、さらに諸外国の留学生の友達のたくさん、それぞれの国の違いを学ぶことができました。日本には産業の基礎である「人」それから「物」「お金」、驚きます。「中卒・高卒・大卒」ほ



パンディ・ヘンプロパさん

とんど希望する仕事に就けます。ネパールでは、勉強をたくさんした人でも、就職の機会が訪れません。ただただ、落ち込むことだけです。まだ、世界には学校へ行きたい、でも行けない子供達もいます。学校行きたくても行けないことを日本の子供達、学生達はあまり知らないのだと思います。さらに、日常生活でみると「感情」を交友したり、「表現」で表したりする習慣が日本人にはあまりない気がします。この8年間の間に、私が気づいたことです。感情を出さないことによって、一人で悩み、結果的にいろんな問題が出てきたりします。衣食住のなかでも、人としての「情」の心がなくては、人間としては、貧しくなってしまう。これこそが、日本の人々の問題だと私は思います。日本には物質的なものは全てあります。でも、精神的な感情の進化こそが今一番必要な要素だと私は思います。先進国では経済的に裕福で誰でも最高の教育を受けることができます。ネパールのへき地の山岳地域で暮らす人々は、都市優先のため、電気・ガス・水道・医療施設等インフラ、政治の恩恵から遠ざかっております。これは日本のように全ての地域が一斉に発展できていないことが理由になります。

私は帰国後、10年に近い日本での多い経験を、2つの大学で教えたいと思います。さらに私の特技の「ヨガと瞑想」を教えたいと思います。ヨガと瞑想をすると、便秘がなくなる可能性があります。心が広がってきます。それで、大事にして勉強もやって、研究もやって、家族もあって、ヨガと瞑想もあって、幸せに生きたいと思います。だから、今からの私の人生は家族と幸せに暮らすのが願いです。良い教授でありながら、良い妻と母になることを願っています。皆さん、ご清聴ありがとうございました。

御三方の講演が終わり、参加者との質疑応答となりました。参加者から「それぞれの国

には、学校以外に教える学習塾みたいなものがあるのか、ないのか？」という問いに、イランのサカザデ・マシドさんは、「イランも学校の後は、時々、家族がお金を払って、たとえば私も同じように英語を習いました。日本と同じように、イランも英語を勉強していますが、でもあまり話すとか、文法だけです。だいたい日本と同じだと思うんです。だから、私もイランにいる時も、自分で子供の時から英語を他の場所、学校の後、習いました。学校だけではなく、他の場所とか、いろいろな言葉を習う事は良いと思います。」と答えました。

続いての基調講演は、国際政治学者で参議院議員の猪口邦子氏です。

### 【基調講演】国際人に学ぶ日本人の生き方

#### 猪口 邦子 氏

(国際政治学者・参議院議員)

本日はお招きいただきまして、大変光栄に存じます。

私は、日本学術会議の会員であり、長年国際政治の上智大学で教授を務めて参りました猪口邦子です。

2005年から国会議員となり、初代、少子化専任の大臣。また男女共同参画の大臣など務め、その時はじめて自分を実務の世界というものを経験しております。

ただ、それ以前に、2年間、軍縮大使という、もうひとつの外交実務の面を経験していることもあります。長年、研究者として、学者として仕事をしてきたけれども、自分が書いた物をどなたかが読んでくださって、共感してくれて、時代を変えていく。それを期待しても、なんだかちょっと「ゆっくり」かなと、時代はもっと早く変化を求めている、自分が直接に問題の解決者にならなければならない。



そう思って、研究者である部分を持ちながら実務の仕事をして、今日に至っているということでございます。

### 教育によって、人は「イマジン」する力を獲得する

私の、最初の軍縮大使の経験、その後大臣含む国会議員としての経験。そして、研究者と実務の違いは、何であるかを一言でいうならば、研究というのは真理の追求です。だから、真実を追求していくことを目標にして、いろいろと真実を明らかにしていくことをいたします。ところが実務はそれだけでは不十分です。実務とは問題を解決するために全ての仕事があると思います。ですから解決できない実務のやり方は、そもそも実務として成立していません。ですから私は、全く不慣れな選挙運動をはじめて選挙区を持ってやった時、あれこれ考えていろいろ教えてもらってもよくわからないので、自分で信じたことを言おうと思いました。そこで言ったことは、「解決力」です。それが政治にも実務にも経済にも社会の活動にも全部必要です。問題を解決できる人になれるかということが、教育の本当の目標だろうというふうに思っています。

教育というものは、人になにを可能にするのか？

教育を受けた人と受けていない人の大きな違いについてお話しします。

目の前の現実が自分にあります。目の前の現実、誰でもよくわかることです。ところが、本を読む人・人の話を聞く人・自分で勉強する人、その人たちが可能になることは「イマジン」する力を獲得することです。自分は経験したこともない、見たこともない、けれどもその問題が理解できる能力です。本を読むということは、自分の経験していない世界を知ることです。自分の経験していない世界を知ること「イマジン」する力—これがその後のその人の問題解決力を可能にすると思います。

それから、問題の解決をしていく時には、身近な問題を解決できない人は、大きな問題を手掛けることはできないと思います。私は、海外で自分も留学生生活をして、軍縮大使など大使職をやったので、よく「猪口さん、国際人になるにはどうしたらよいのですか」と、聞かれるのです。国際人になるということは、世界には問題が多いので、問題の解決することができる人になるという意味でもあります。でも、例えば教室の中で、誰かがちょっと勉強が遅れているとか、誰かが困っているとか、そういう自分の身近な世界のその人を助けることができない人は、遠いアフリカの子供の苦難を助けることなんて絶対できないのです。世界の問題を解決するためには、今日、目の前のその教室の、その何かの活動の場面の、その問題の解決者になっていくことができるのか。その子の問題は、自分は経験したことがない。例えば、数学がどうしてもできない、九九が言えない。そういうことが自分は経験したことがない。その子の苦勞を「イマジン」することができるか。そして、自分として何か助けることができるか。こういうことをできる人に教育することが、公教育も私塾の教育も家庭教育もみんなそれを目指しているのだろうと思います。

いろいろな子供たちが行き詰まる中、自分も教育者でありましたので、よく私が最後に



言うことは、「あなたが、オギャーと生まれた日、世界でどのくらいの人がオギャーと生まれて、まず、今まだ命がある人、栄養がちゃんと得られて、識字を得ることができる人、ましてや大学にまで進学して何らかの事を悩みながらも勉強できるという立場の人は、何パーセントですか？1%以下でしょう。そのものすごいリスクをクリアして、今、この目の前にあなたは座っていて、何を言っているんだ。そのチャンスのなかった全ての人の無念のために、しっかりと勉強して何らかの問題を解決できる人にならなければならないでしょう！」というようなことです。ですから、常に「イマジン」する地平の広さを持っているということは自分自身を助けることにもなります。

#### 「国際人」であるための4つの基準

教育の中には、さまざまな基準がありますが、例えば、私が勉強したアメリカでは、ど

んなにIQが高くてもどんなに学力が高くても、ある基準について安心感を与えられないとうまくいきません。それは何かというとても単純なことですけれども、「国際人」とは何かということに繋がるのです。それは、「紳士」であるということです。紳士であり淑女であるということの根本が大事で、それがきちんとできていれば例え英語ができなくても、「あっ仲間」だと思ってもらえるのです。

では、紳士淑女の基準とは何かということです。それは、教育を通じてきちんと授けなければならないものだと思います。どこかできちんと教えなければ、子供達はわかり得ないのだと思います。誰かが言わなければならない。普通は家でいうべきなのですが、最近そういう家庭教育もないとするならば、まず、私は4つくらいの基準を挙げることができま

すので教えてあげてください。  
まず1つ目は、【フェアプレーが出来る人でなければならない】紳士の文化というものは、スポーツからもきています。フェアでなけれ



講演する猪口邦子氏

ばなりません。なぜ、フェアでなければならぬのかというと、フェアでないことを行っているならば、必ずどこかで謝らなければなりません。例えば、自分の能力が追いつかなくて、「すいません、宿題が間に合わなかったです。」というような謝り方は、自分の尊厳に関わらない謝り方だから良いのです。フェアでないことを行った時、謝ることは尊厳に関わることとなります。紳士淑女とは絶対に自らをそういう立場に置かないことです。だから、必ずフェアにやるということをきちんと教えていただきたいですし、また、業界全体としてフェアな精神でしっかりと水準を上げていくという運動をすることが、全体の良いことに必ず繋がります。

2つ目は【弱者に優しく】ということです。弱者に優しい言動がとれるかということです。心で思っている、というのはダメです。例えば、電車の中でなぜ席を譲らないか？赤ちゃんを抱いたお母さんとか、妊婦さんとか、体の具合の悪そうな人が目の前に立っているのだから、譲ればいいじゃないですか。けれどもその小さな勇気がないっていうわけです。そのように小さな勇気も持てない人が、塾に来て猛烈に勉強して何かいつの日か立派な仕事をしようと思っているのだろうけれど、立派な仕事などできるわけがありません。

3つ目は【差別的な発言をしてはいけない】ということです。人の心の内心まであれこれと教育するのは難しいと思いますが、でも、言ってはダメなことは言っただけいけないわけなんですね。やっただけいけないことはやっただけいけないので、自分を律することができる。そういう強い人にならなければなりません。日本ではよく、政治の世界でも、「舌禍」というのがあって、「いや～実はね～本当はね～こうなんだよ～」みたいに、「腹を割って言うとかさ～」みたいな、こういうことはダメなんです。腹を割ってはいけない。自分が本当に内心も、偏見・差別がない人であるということ

が目指すべき教育ですけれども、教育の世界でギリギリできることは、そういう差別的言動を絶対にとらないということですね。

それは、教育を受けた人の水準の高さを示すことです。

先程の席を譲る譲らないのことで、本当に内心から優しくして席を譲れる人がいたら素晴らしいと思いますが、私は高校の2年から3年にかけて留学してアメリカの家庭にお世話になったことがあります。コンコードアカデミーという学校に行きまして、今度、駐日大使でアメリカからおいでになるキャロライン・ケネディさんはその学校の私の後輩です。とても名門の良い学校だったのですが、たまたま「運」で行かせてもらった高校なのです。そこに自分の子供を通わせている家庭のホストファミリーの所でお世話になりました。そこのお母さんが紳士教育をするのです。息子さんと娘さん二人にお嬢ちゃんも二人いるのですが、お嬢ちゃんは何とかなるんですけども、その年齢の男の子といたらなかなか行儀良くすることができません。作法もなっていないので、お母さんに毎日毎日怒られているわけです。叱り方の最後の言葉が、「あなたは絶対に道路をわたる時に目の不自由な人がいたらやさしくしなければいけない…。その場にいる全員に自分は紳士だということを示しなさい。私は淑女としてあなたを教育します」。こういう言葉が家庭で飛び交う。そのように人に見せる形で自分の紳士教育を受けたということをきちんと示しなさい。そのような教育を彼らはなさっていました。

日本ではそういう言い方はなかなかないと思いますけれども、本当に内面まできちんときれいになって欲しいと思います。教師としてはしっかり紳士淑女になっていくことが、教育の中でのひとつの目指すべきことだと思います。

最後のポイントは【言葉の達人になる】と



アメリカ・ニューヨークの街並み

ということです。紳士というのはジェントルマンですから優しい人ということで、つまり、出会い頭に武器を使わないで済むということです。言葉で説得して自分の身の安全を確保できる方です。言語の達人になると、武器を使わずに自分の身の安全を図りながら相手を言い負かせて自分の利益も追求できる。究極のやり方です。でもなかなか立論の鮮やかさや鋭さを身につけないと手が先に出てしまいます。だから先生でも体罰をする先生がいます。今は体罰は完全に禁止事項となっていますが、愛情からというのはダメですね。言葉できちんと説得できることが本当に大事な教育の一部なのです。日本ですと鹿鳴館的なイメージで、スープの飲み方とかそんなふうにするかもしませんが、今言ったようなことを教育を通じて、子供達に是非きちんと伝えていただければありがたいと思います。立論が鮮やかであること。そうすれば、即「国際人」なのです。語学は後についてきたいと思います。例えば、通訳をつけて話す時に立論が不明瞭では通訳のしようがありません。実際に通訳で話してたのかどうかもわか

らないぐらい緻密な論理で話をすれば本当によいやりとりができます。それが母国語でできない人は英語でできるわけがないと思いますので、しっかりとまずは日本語で立論の鮮やかさを身に付けさせることが重要です。これは後天的な能力になります。生まれて親に立て板に水で論破できる子はいないので、言語能力というのは全部後天的なものですが、それは練習の回数によるということです。

幼稚園でも小学校でも、海外ですと友達とケンカしたら、どうしてそのケンカになったのかということの説明できないと子供の分が立たないと言われます。日本では黙って謝ってらっしゃいというので、能力が育たない。訓練とか場数がないと育たないのではないかと思います。

### ある時一生懸命やるということが道を開く

言語能力はとても大事ですから、まず国語に長けないといけないと思います。これからの時代はコミュニケーションの力がとても大事ですし、コミュニケーションの最後の形は



文章で渡しますから文章がきちんと書けない人はなかなか難しいと思います。その上で英語です。私は留学した時、それは大変でした。ホストファミリーは温かい家族でしたが高校の水準は高いので、学校で勉強するにあたって本当にそのまま帰れないと思って、毎日ピアノ弾いてたいとかいろんな逃避行動もそういう場面ではありました。その時に自分の別の才能を発見したり、いろいろな学力以外のことを発見したということもありました。

私はその後、イエール大学に留学しますが、高校で一年の試練があったから世界を知らないととんでもないと思ったので、本当の専門的な研究者・教育者になるには、きちんと留学しなくてはと思って行きました。私の時代は私費留学というのはありません。私は普通のサラリーマンの家庭ですが、お金持ちの家でも私費留学がありません。私はロータリークラブの奨学金に百倍を超えるという倍率の中で合格することができ、これで道が開けてイエール大学に留学することがで

きました。イエール大学に行ったらとにかく人の何十倍も勉強しないと行けないのですが、すでにその人達がもう全米から集まっていて彼らはすごく勉強する人達なので大変でした。その時に、ノートの取り方や本の読み方のポイントなどを身につけたのですが、基本はとにかく毎日絶対に繰り返して繰り返してやるということです。一日も休まずにやるということです。最後にはこれにかなう人がいない。私は一年目では少し難しかったですけれども、一年の終わりには全額の奨学金がイエール大学から出ることになりました。それだけの成績が取れたということです。入学者の半分が脱落していく博士課程の一年目ですが、自分は残って、かつ、かなり成績優秀者で奨学金は全額出るということでした。私は一年しかロータリークラブの奨学金はないので、もしそれが取れなければ帰るというだけの選択肢しかありません。だから必死でやりました。そして、二年目には学年で一番になりました。そのぐらいの言語のハンディはどうでもよくなるぐらいの勉強の仕方でした。それはどの



方法かという、次のようになります。自分の宿舎があって、大きなスターリングライブラリーというイェールのキャンパスの真ん中にある図書館があって、教授の部屋があって、もう一つコンピューターセンターがその近くにありますが、この三角形エリアを絶対に出ないということです。この三角形を必ず毎日どんなことがあっても行ったり来たりするので、図書館は24時間開いていますので、人によっては毛布を持って行く人などいて本当にすごい勉強の仕方をする。私はさすがに11時くらいには自分の宿舎に帰るようにしましたけれども。その二年間の経験があるので、今でもその学力で自分を持っているような気がします。ですから人生のある時ものすごいことをやらなければならないことがあります。一週間のうち何冊も1,000ページくらいの本を読まなければならないこともありましたが、なんとかクリアしていきました。いま振り返るとあの後ずっとそうしてたらどんなによかったらと思うのですが、そういかないものです。しかし、ある時一生懸命やるということが道を開くと思います。

勉強の仕方ですが、最初どのようにしたかという、とまず全部教科書を暗記しました。とにかく先生がリーディングでこの本のこの章を読みなさいと言う時に、まずどこがポイントかアンダーラインをしてアンダーラインしたところは丸暗記です。なぜなら、彼らが母国語で議論するのに対し私は外国語で議論するのだから、はじめからビシッと文章が頭に

入っていないことをばんばん言うことはできないですからとにかく暗記するのです。次に暗記する文章を書き出します。書いているうちに覚えるし、書いてあればずっとそれを見ていて、朝起きても見ます。教室に行く途中でも見ます。どんどん頭に入ってきます。この勉強の仕方が基本的に一番良いです。

それから、単語です。これはイェール大学に行く前の段階でやっていたことです。言語は語彙力ですからとにかく語彙力の小さい人は相手を説得することができません。いかに語彙力を増やすかですから、単語帳方式は非常に有効です。ところが、単語帳は一旦理解して次のページに行くというのが間違いで、理解しているページを毎日必ず全部書き出します。だからどんどん毎日やる仕事が増えてきます。単語を覚えるのは高校くらいの時ですね。例えばAから始まって **apple** と書いていきます。わかってやめるともうそれは定着しない能力になりますから、わかっていることを書き続ける。一年も同じ単語を書き続けるともうこれで誰にも負けない英語力になります。本当に騙されたと思ってこれやってみたらと周りの子供に言うのですが、このやり方で全員英語の成績トップになっていきます。もう一にも二にも語彙力ですから。

今でも国会議員の中でも、たぶん私が毎日一番英語を勉強している人の一人だと思います。まず、朝ヘラルドトリビューンとフィナンシャルタイムズの一面を全部読むんですね。次々とページをめくらないで最初のページだけ10回読むのです。他人が何を言おうと



関係ないのです。一生懸命勉強しているのを、人に見られてもしょがないと思います。でも本当は、人に見られないで一生懸命やるのが良いです。できれば鏡の前でやると、英語を話す時は顔の筋肉の使う場所が違うので、コーディネーションがうまくいなくて表情が崩れる時があります。気をつけて鏡の前でファイナンシャルタイムズの最初のページを10回読む訓練をしたらどんな演説も困らないです。それから簡単に文章が書けるようになりますから、英語で演説も書いてプレゼンもできるようになります。東京オリンピック招致でプレゼンの力がこれからの日本の歴史をつくるのにどんなにか大事かということ、あの時プレゼンをしてくださった総理はじめ皆さんが示したわけですが、猛烈な努力をみんなしているのです。でも、日常的に私達はそれをやらなければならないからと努力をすれば語学はできるようになります。

### 母国語でないもう一つの言語を身につけるということ

先程は留学生の皆さんが立派な日本語でお話し下さったんですけども、よく学生達と話す時にこういう質問をすることがあります。「人間には2種類の人がいる。どういう種類とどういう種類の人がいると思いますか。」それは、例えば都会に住んでいる人、田舎に住んでいる人。塾に通った経験がある人、全く塾のない所に住んでいる人とか、色々いると思います。いろんな分類が人についてできます。しかし、究極の人間の分類っていうのがあって、それは一つの文化を知る人と二つ以上知っている人です。一つの言語を知る人と二つ以上の言語を知っている人、これは深い違いなんです。他人の言語を努力して学ぶ。この決意をしてそれだけの自分の人生の情熱と時間をかける人。そして、言語をわかれば



文化の深さや違いにも目覚めていきますから、その全てが導火線のようにになります。

私達は親からももらったこの「日本語」という言語があります。でも、もう一つの言語を努力する人とこれを諦める人。この違いがあるから、是非このもう一つの言語を身につけるグループにみんなで入りましょう——それをやった人には、心からの敬意を表す必要があるのではないのでしょうか。それは、ネイティブスピーカーではなくてがんばっているということです。

私は軍縮大使をした時に、国連の小型武器軍縮の議長になりました。ネイティブスピーカーではなく競争的に議長職を獲得できるというのは日本の歴史の中でもまずなかったことなのです。世界が、「猪口」でいいかということなのですけれども、そこにはたとえネイティブスピーカーでもある分野の軍縮について一生懸命やって英語で全部やっているというようなことに着目して、イギリス人と日本人の女性の大使が同じくらいできたら、彼女にチャンスを与えようという空気が議場にできて、日本の大使でこの議事はやってもらおうじゃないか。だから、世界の人の中で、特に言語で苦勞している人達はその努力をした人達を見分けるのです。自分がどのくらいできるようになるかどうかは別として、是非、もう一つの言語、その奥にあるもう一つの文化、これを知る人の側に生徒達と一緒に私達も立ちたいと思っております。

## 内戦から教育立国へ、ルワンダの大統領のことば

世界に、日本の子がどのように目を向けているのか。最近では内向きになっているという事で何とか触発する方法を教えるということはこの講演の企画の方からもお話しがありました。

私が一ヶ月に1回出している通信をお手元に配っています。アフリカ会議が6月にあった時の通信の方を開いてもらおうと、下にルワンダという国の記事がありますけれども、後で見えておいて下さい。いろんな国のことが書いてございます。

ルワンダという国ですが、皆さんは大虐殺があった国として思い出すでしょう。多数派のフツ族と少数派のツチ族の内戦でもものすごい大変な戦いをした国です。現在のカガメ大統領という方は少数派の方で、3歳の時に難民となって隣のウガンダの方に難民としてずっと育ちました。その国で認められて軍人になってアメリカの士官学校に行っていた時に、自分の国で内戦が起きて初めて自分の国に大人として戻って内戦を平定するのです。そこで、虐殺を最初にやったフツ族側の大統領を立てて自分が支えてあげるので。その後8年くらいやって、いま自分が大統領になっています。ルワンダは20年くらい経ったいま、最もアフリカで治安の良い国のひとつです。ルワンダは、アフリカのスイスと呼ばれる程の国になって汚職と治安の悪さが完全に払拭されました。すごいことをやり抜いたのです。

さらにこのルワンダは資源がありません。普通、アフリカの国というときダイヤモンドや金を産出して日本もそういう所に投資したりします。そういうことがない国なのです。内戦と大虐殺の近代史・現代史をもっているとどれほどの負からのスタートだと思います。カガメ大統領は、「地面を掘っても何も出てこ



ないんだから『数学』だ。数学は金やダイヤモンドより重要な資源なんだ。」と言いました。これを国の方針にして、全員数学をやるのです。数学ばかりをやるのです。だからというわけではないでしょうけれども、ルワンダから日本に来ている大使は数学博士です。全員数学がよくできる若い世代が出てきたのです。金も銀もマンガンも何も出ないという国に日本の企業として、投資する人はいないだろうと思うのですが、大統領がおいでになったのでルワンダに投資している日本企業の方々に集まってもらいました。そしたら、なんとたくさんいらっしゃいました。どういう所に投資されているんですかとかがいましたら、ルワンダの「ITですよ」、「ソフトウェアはもう、彼らにかなう人はいないですよ」という感じですよ。つまり、ものすごくIT関係の投資を始めているのです。東京とルワンダの間は12時間の時差がありますから、東京でプログラムが夕方終わって、頭が疲れたといったらルワンダの方に送って夜仕上げてもらって、また東京に戻ってくる。インドのバンガロール（インド南部の州都）でやっていることのシフトがルワンダとは組み合わせることができます。これはいろいろな発展をします。外国を知るということはそういうことなのです。

学生さんでもNPOをやっている方でもそれぞれの立派なカウンターパートがいます。その人達はみんなすごい歴史と何かを背負って生き延びた者の責任として、その貧しい国で全てを失った国を立ち上げなければならないと情熱をもって勉強してやっているのです。

だから、塾があるかどうかかわからないですけども、公教育全部は破壊されていたので、もともと塾から立ち上ってきた教育体系であるという感じがします。

## ベトナムで見た現代人の素晴らしいイマジネーション

今朝ベトナムから戻ってきました。

ベトナムでずっと軍縮会議をやっている、朝 8 時の便で成田に来て、今日この場に来ています。ベトナムといえば、ベトナム戦争です。ベトナムのある将軍がちょうど 10 月 12 日に亡くなりました。この方は 103 歳まで長生きされました。まずフランス軍と戦って植民地解放して、第二次世界大戦では日本とも戦っていらっやいます。最後はアメリカと戦いました。ベトナム戦争はアメリカが建国以来の最初のそして今日に至る唯一の敗北です。これを実現したその方が亡くなったのです。ひとつのベトナムの歴史が終わったと新聞に出ていました。

私は現地に行くと必ず現地の新聞を読むのですが、そこで、私もたくさんベトナムについて書いてきたのですが、わからなかったと思うことの多くが一週間の滞在でわかりました。まず、日本と比べると新聞の内容が全く違います。どの国も戦争や自分の歴史を背負っているのです。それを生き延びた人達がどのように立派に生き延びているかを原点にみんなが勉強するのです。日本でも戦争の遺族の方いらっやって高齢化していますが、ベトナムでは 1975 年によく統一されたという歴史があります。生き延びた人の中には、非常にディスアビリティ(障がい)を持っている人達がたくさんいます。

昨日読んでいた新聞に出ていたのは、ある作家のことで、彼は両手が 4 歳の時に失われました。いろいろな人が彼が言ったことを書いてくれたり、後にはコンピュータができた



から足でコンピュータを打って本を書き上げたりしました。彼はハノイ大学にその後進学するのですが、学生の時に書いた最初の本で非常に注目されました。その本の名前は『僕は学校に行った』という本です。本当に教育を受けるということがどれほどの感動なのかということを書いている本なのです。そういうディスアビリティだからこの学校も受け入れてくれなくて、でもたくさん勉強して学校に行ったんだ—『僕は学校に行った』という最初の本がベストセラーになったのです。それから彼は先生になる道を選んで大学教授になっていきます。最近出た本で『僕は教えた』という本が出ていて、それがまたベストセラーになっています。だから、どの国も何か背負っているものがあって、その背負っている人が背負っている姿というものを明らかにすることによって必ずしも直接背負っていない人——例えば戦争も知らない人、「ヒーロー」が立派に生きているのだから、自分もちゃんと勉強しなければならないと思ってものすごい勉強をするのです。だから、投資する人達も最近ベトナムの勤勉さや一生懸命勉強すること、労働水準も非常に高いということをおっやいます。そういう「歴史を背負っていること」と「本当に真っ只中でそれを背負わざるを得なくなった立場の運命の方のすさまじい立派な生き方」にみんなが感化されています。教育というのはある種の感動を子供達に伝えて、だからがんばらなきゃだめなんだということ言うのではなくて、その人が内発的にそのオーナーシップを持って



それを受け止める・抱きしめていくことが大事です。自分の国にもあるでしょうけれども、どの国にもすごいストーリーがあります。そういうことを知るということです。先程「イマジンする力」ということをいいました。見たこともない、行ったこともない、生涯行くかどうかわからない、遠い国のことだけれども、現代史としてのその悲劇を知っていてどのようにその人達が現代、そして若い世代として折り合っているのかということを経験していき、いろいろな勉強の仕方があると思いますね。

教師としては、時に雑談の中でも、直接教科になくても教えてあげると有意義なことになるのではと思います。どうやって子供たちをモチベートできるか、動機付けることができるかということがすごい難しいのです。

「どうでもいいや」とか「そんなの私と関係ないや」とかそういう感じの態度が多いです。しかし、そう言いつつもどこかで聞いています。

そういう話について、「いや～それはすばらしい」、「ベトナムはがんばってるんですね」とか「ルワンダもそうだったんですか」と言うのは、私の世代なのです。

今の若い世代は「何言ってるんだ」みたいな感じなのだけれども、どこかで聞いていて、あとで「手紙を書きたい」とか、「E-Mailは届くのか」とか聞きにきたりもします。ですから、真正面からの教育ではなくてもどこかで刺激して、モチベーションを与えることができれば、教育としてはすばらしいのではないかと思っています。

### **自分の学習が無限に可能になるという構造**

数学——。日本も資源がないですね。やはり数学は基礎的教育の最も鍛錬が必要なところですよ。

数学というのはある程度の教育への覚悟と

決意がないとできるようにならないでしょう。頭が良くても数学ができるとは限らないですね。数学というのは repetition (繰り返し) です。日本では九九は repetition です。意味がよくわからなくても教室ですべて教えられた記憶をわれわれ持っています。昔の教育はとにかく次から次へと計算問題をたくさんやって、こんなのはできるからと言ってもまたやりました。それはこんなのはできるからと言って単語書きをやめてしまう人が実際には実力がついていかないという話と少し似ていて、こんなのはできるからと言ってどんどん毎日必ずやるというある種の勤勉さの基準となるのが数学なのです。だから数学はきちんと全員できるようにしなければならないと思うのです。その一定の能力があれば、勤勉であれば全員数学はできるようになると思うのです。

しかし、毎日覚悟してやらなければならないから、生き方や自分の生活の秩序をどうやって作っていくかということや、いやでもわかっているでもう一回やってみるかという好奇心のようなものが現れるのが数学だと思うのです。

英語もそうですけれども、国語はもともとできるというものがあると思います。ですから読書ですね。読書量が足らな過ぎます。イエール大学で勉強した経験を申し上げますと、ものすごい量を読まされました。このことが全ての出発点だったと思います。

日本の大学では、シラバス(一定期間の講義計画)がありますが、この内容が貧弱過ぎます。きちんとしたシラバスの概念がそもそも日本に入ってきていないと思います。例えば、国際政治の冷戦の崩壊の授業をやろうとする。その週は冷戦の終結という授業です。これを論じるにあたって、世界の 10 の論文を読むとすれば、この 10 本が教授の証明なのです。その 10 本の内容が貧弱だったらあなたは何を勉強してきたのかということなのです。教授達はこれを競います。いま、ネットで自分のシ

ラバスを公開しますから立派な先生のものを見て勉強して自分の学生にもこういうのを読ませようと思います。だからアメリカの場合、どんどん水準が高くなっていくのです。シラバスのその週のその時間のために読む。その本の全部ではなくて、この章の何ページから何ページまでという教え方をするからです。だから読める範囲のものがくる。日本ですと教科書・参考書のこの10冊と言って半年間持たせるということなのですが、それですと実際には勉強の手引きになっていきません。さらに、大学・高校もある程度そうかもしれませんが図書館が貧弱過ぎるのではないのでしょうか。中心的な書物はいつでも必ず手に入るようにしておかなければならないですし、教育目的だったらそれらをコピーとして可能にしなければならない。イエール大学の図書館は、まず全ての科目のシラバスが全米一であることが教授に期待されています。そこで勝負するのです。だから、教育者も研究者も同じことがいえます。立派なシラバスを作ることが教育者の最大のサービスです。では、10本の論文はどこにあるのかといいますとスターティングライブラリーという図書館に行くと、受付のデスクの後ろに棚があります。シラバスに載っている全ての文献は全部この棚にのってるのです。だから自分が本屋に行ったら絶版でしたとか、図書館のどこかの棚を見たら誰か借り出していましたなどということがないのです。いつでも必ずどの子も手に入る文献としてこのフロントデスクのリザーブセルフが管理されてないとなりません。このシラバスとリザーブセルフの二つの武器によって自分の学習が無限に可能になるという構造なのです。

### **世界のレベルを見ながら教える、輝くところをたくさん強化してあげる**

私が前述したコンコードアカデミーという

高校ですが、ここはハーバード大学の進学が全米1位の高校です。キャロライン・ケネディさんもハーバード大学に進学されております。高校でも、大学でも関係なく同じシステムでやっている。ですから、今回はこういう授業だといって、日本では学習指導のルールがあるけれど塾だったらそれができるのです。だから高校でも大学でも教えるということはこういうことだとリザーブセルフへ行けば、コンコードアカデミーのライブラリーに行けるのです。行けばその文献が全部あります。

私は、学校教育を補う形で塾があるという中に非常に尊い使命があって、いま学校教育でも追いついていけない内容がたくさんあります。もっと世界のレベルを見ながら教える。それぞれの子供にみんな輝きがありますから、それをうまく引き出す。この二つができるのは多分塾だろうと思っています。実は長年放課後子どもプランを大臣の時から提案していて、それが今回土曜授業の政策につながっているのです。塾の協力を得てやりたいと文科省が私の所にも来て言うておられました。今日いただいた資料にそれががあるので、塾の皆さんも協力してくれていたのだということがわかります。どういうことかと言うと、子供達はみんな才能があるけれども、才能が偏ってます。平均的にできる子はまずいなくて、輝くところをたくさん強化してあげることが学校教育の中ではできないと思います。例えば、音楽ができる子、美術ができる子、算数ができる子、いろいろなできる子のその部分を大いに伸ばしてあげることが、多分放課後授業あるいは土曜日授業で、英才教育的なことをきちんとやってあげられる所は私塾だったらできるのではないかと思います。それは、親の希望や受験のために必要だということもあるだろうけれど、受験をしてよいところに入ったとしても就職があるかどうかわからない時代ですから、その親からして考えを改める必要があって、自分の子供と

や自分の教えている子供の才能を見出せるかどうかなのです。親が発見できないのを発見するのが教師の仕事だろうと私は思います。

私は上智大学で教えていた時、たくさんの学生がゼミに来ましたが一人一人全員発見できました。上智大学は私学でしたけれども、私立のところでも上手く子供のできる部分を大きく発展させないと今のグローバルな競争はその部分での競争になりますから、到底普通の標準的なでき方ではなかなかもったいないと思います。もうひとつは、補習です。すごく不得意なものがあるためにそれだけで自信を失うともったいないので、そこは普通に自信がつく工程が持てるようにレベルアップしてあげることがあるけれど、本当の勝負はそこからできることを大いに伸ばしてあげたらそこにその子の将来があるし、それを発見できた先生はその先生しかいないぐらいだと思います。他の先生達はそういう目を持ってその子に接することが少ないでしょうから、と思います。

教育の課題、世界にどう目を向けるかということで前述した世界の二つの例を（ルワンダとベトナム）申しあげましたけれども、いろいろな国の歴史は勉強したら良いと思います。それが教養の範囲のことであり、ましてや留学生が自分のクラスに来てくれてたり、姉妹校提携などで交流することがあったら、ぜひそういうことを勉強したら良いと思います。何かのきっかけがあつて世界には 190 もの国がありますけども、きっかけがあつてある国のことをよく知る。必ずそこにドラマがあり、歴史があり、それを生き抜いた人達があり、その人達の情念があり、それらを分かってもらうことがまず自分の所を発見するということにもなるかもしれないと思います。既定の教育のなかではやりきれないこと、親が本来はやっていたことがもはや成されていないこと。



自分の直接の子供ではなくてもいいんじゃないかと私は思います。たまたま自分の塾に来た。私が思うにたまたま自分の地域に生まれ育った子は、自分の子みたいなものです。その人達に自分が持てる大人社会の裁量を提供する。それが塾の場ですよ。塾という枠があるからすごくいいですよ。自分の子だけに何かを伝授するという江戸時代的な考え方ではなくて、そこに算数の才能のある子や文章がとてもし上手な子がいたら、自分のその才能をその子に伝授すれば次世代にその才能は伝わるといふうにして全体をレベルアップして、みんなが自信をもって広く世界をイメージできる子に、そして、そこまでのラッキーな教育の機会を得た子だから問題は解決しなければダメだよと教えてあげて欲しいのです。解決しなくて、そんなすばらしい能力を自分だけで持っていてどうするの？だからそこを「解決力」に展開するというのもお伝え願えればと思います。

どうぞこれを機会に皆様と一緒に次世代に我々世代の最良の物を伝達していく、チームと同盟を結びたいと思います。一緒にがんばって参りましょう。本日はありがとうございます。

### 第3部

## 親睦交流会

第2部終了後、会場を3階「祥雲」に移し

て、午後 5 時——。会場は、テーブルに新鮮な食材を交えた料理が並べられ、第 3 部・親睦交流会が開かれました。

親睦交流会は渡辺浩実行委員の司会で進められました。全国学習塾協同組合の森貞孝理事長の発声による乾杯のあと、ご多忙の中を駆けつけていただいた高市早苗衆議院議員よりお言葉をいただきました。2011 年の長崎、2012 年の広島から東京・浅草とつながれた「塾の日」のグランドフィナーレはいつも地域色ゆたかな趣向となりますが、今年は TOKYO

流なスマートでコミカルなおもてなし。サクソ奏者による四重奏やプロのバーテンダーによるカクテルサービス、そして大道芸人によるアクロバティックなパフォーマンスが演じられました。

笑顔のうちに宴たけなわとなり、塾の日シンポジウムの次回開催地・宮城県仙台から協会北海道・東北支部の皆さんが紹介され挨拶されました。最後に、内藤潤司実行委員長より謝辞があり、会場は大きな拍手に包まれながら、エンディングとなりました。



全国学習塾協同組合の森理事長の音頭で乾杯



親睦の夕べを彩った四重奏の音色



挨拶する高市早苗衆議院議員



2014年「塾の日」を担う北海道・東北支部の皆様



会場が固唾をのむ大道芸の妙技



閉会にあたり謝辞を述べる内藤潤司実行委員長

# JJA インフォメーション



## 講師スキルアップ、新人研修、能力開発に最適！学習塾講師 検定集団指導 2級・3級は3月1日申込受付スタート！

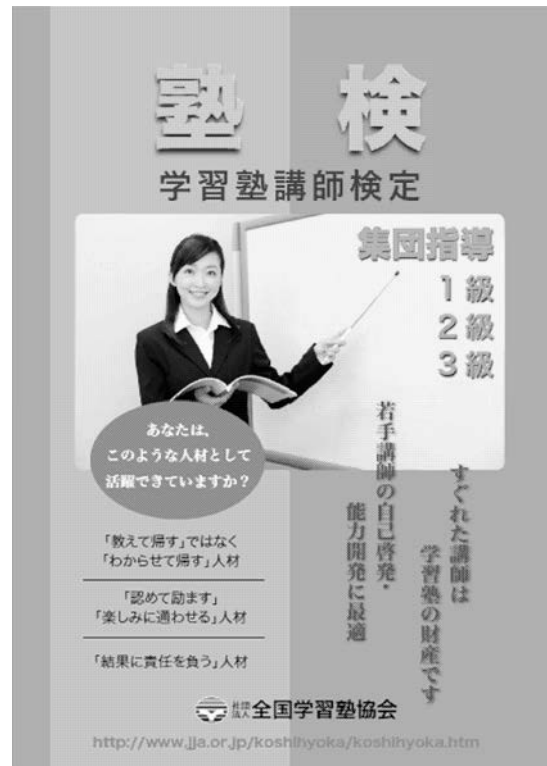
～東京、名古屋、大阪、福岡、仙台の5会場のほか自塾教室を準会場とすることで受験がしやすくなりました～

協会では、学習塾における優秀な人材の確保・育成を図るために、学習塾講師能力評価システムの構築に取り組み、学習塾のミッションと期待される講師像を定義した上で、「学習塾講師集団指導1級（以下、集団指導1級）」「学習塾講師集団指導2級（以下、集団指導2級）」及び「学習塾講師集団指導3級」検定試験を実施しております。

学習塾講師検定は、現役の講師を主な対象として集団指導2級をご用意しております。2級試験は『テキスト学習・筆記試験』と『実技試験』の2つの段階を有しています。集団指導2級を認定されるためには、『テキスト学習・筆記試験』の合格と『実技試験』の受験合格が求められます。現在、600名の2級資格取得者と28名の1級資格取得者がおります。

今秋申込を開始する集団指導1級検定は2級資格取得者が受験対象となります。より高き頂きを目指してチャレンジを始めて下さい。

協会では新たにウェブサイトにて、学習塾講師検定受験のために自習用の動画配信を始めました。どなたでも閲覧可能なのでぜひご覧ください。



学習塾講師検定自習用動画サイト

<http://www.jja.or.jp/approve/index.html>



## 消費者が安心してサービス利用していただくための信頼マーク 認証基準に基づく第三者評価「学習塾認証」のご活用を！

学習塾認証制度とは、消費者が安心してサービスを利用していただくために、サービスの質や信頼性について、第三者が評価し認証を与える取り組みです。認証された事業者は、当協会の発行する認証マークを事業所や広告に表示することができ、消費者はこの認証マークを目印に、適切なサービスを提供する事業者を選択することができる安心の制度です。

当協会は、サービス産業生産性協議会が公表したガイドラインに沿った認証基準に基づき審査を行い、法令を遵守し、公正な取引を行う学習塾事

業者に対して、認証を付与します。

本年度は前期に6社を審査し全社認証付与、後期は4社を審査し、2月3日に認否の判定を行います。現在は、43の学習塾事業者が認証を取得しています。

学習塾認証付与事業者は、認証マークによって、次のことを消費者や近隣の保護者層にアピールすることができます。

- 消費者に十分で適切な情報提供を行っています
- 消費者と適正で明確な契約・解約を行っています

す

- 通塾する子どもの安全確保に努めています
- 顧客相談窓口を設置してその充実を図っています
- 個人情報の適切な取り扱いを行っています
- こうしたことが継続的に守られ、改善を行っています

平成26年度の申請期間は次の通りです。

- 〈前期〉平成26年4月1日(火)～平成26年5月31日  
(土) 認証決定目安 9月初旬  
〈後期〉平成26年9月1日(月)～平成26年10月31日  
(金) 認証決定目安 平成27年2月初旬

申請書類を整える等のご準備は早めのスタートをお薦めします。



まずは、別紙「学習塾認証申請書類データ申込書」にてサンプル・書式集をご注文ください。サンプル・書式集と学習塾認証制度FAQ(Q&A)を無料でお送りいたします。サンプル・書式集は、エクセルやワードからなる電子データをCD-R化したもので、パスワードをつけて送付いたします。



## 準備は万全ですか？消費税率の引き上げに伴う契約書面交付における注意点について

平成26年4月1日からの消費税率の変更に伴い、消費者庁・経済産業省の連名で、先月27日付「消費税率の引上げに伴う特定商取引に関する法律の特定継続的役務提供取引における書面交付義務についての考え方」が公表されましたので、お知らせいたします。

学習塾事業者が消費税率の引上げ分を消費者に請求する場合、後に事業者と消費者間でトラブルが発生する可能性もあることから、特商法の運用

上注意すべきと考えられる点及び消費者トラブルの発生を避けるために事業者が実施すべき措置について、明確化していますので、学習塾事業者及び関係者の皆様には広くご周知いただければと存じます。

協会正会員様は、同封の「消費税率の引上げに伴う特定商取引に関する法律の特定継続的役務提供取引における書面交付義務についての考え方」をご覧ください。



## 経済産業省が当協会を訪問！事業者にデフレ脱却・経済再生の取り組みを要請！

昨年11月15日に、学習塾業を所管する経済産業省から山田真貴子大臣官房審議官が協会事務局を訪れ安藤大作会長と会談しました。

日本経済はアベノミクスの効果で力強い回復傾向にあり、堅調な生産や消費の拡大で業況が大幅に好転しているものの、効果は地域経済の隅々、個々の生産者、生活者までは必ずしも行き届いて

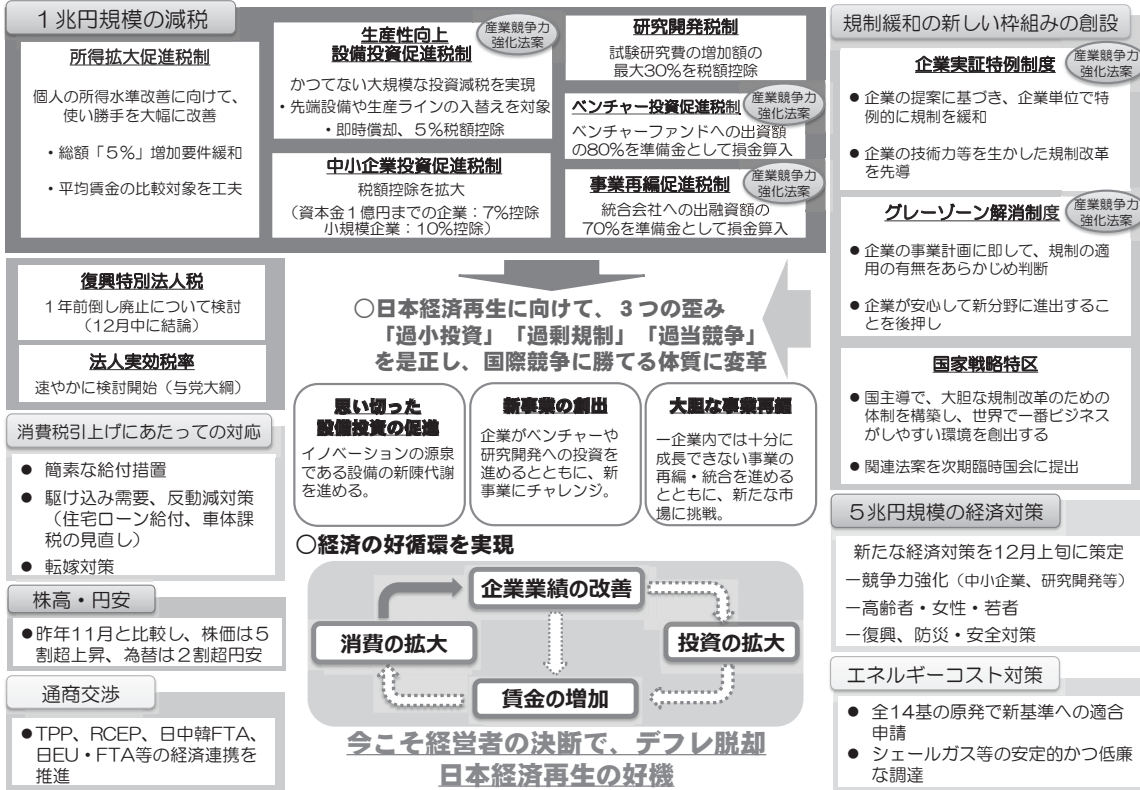
おらず、デフレからの脱却はいまだ道半ばの状況です。

山田審議官からは、デフレ脱却と日本経済再生に向けて政府が取りまとめた1兆円規模の減税、規制緩和の新しい仕組みの創設、5兆円規模の経済対策、復興特別法人税や法人実効税率引下げの検討、エネルギーコスト対策などからなる経済政

策パッケージの説明があり、当協会を通して学習塾業界において、先を見据えての生産性向上や新事業にチャレンジするための思い切った設備投資や従業員への投資といえる賃金引上げなど日本全

体を覆う、デフレマインド・縮み志向を払拭していただく具体的な行動を起こしていただくよう協力要請がありました。

## デフレ脱却と日本経済再生に向けて(経済政策パッケージ)



## 当協会、文部科学省のワーキンググループ等に委員として参画

昨年4月に公益社団法人に移行して以降、当協会の安藤大作会長は9月、文部科学省生涯学習分科会内に設置された今後の放課後等の教育支援の在り方に関するワーキンググループの委員に就任し、第3回WGでは公教育と学習塾の連携事業についてプレゼンテーションしました。同WGの設立趣旨は次の通り。

すべての学校区での学校と地域が組織的に連携・協働する体制づくりを進めていくにあたり、今後の土曜日の教育支援体制等の構築や、学校支援地域本部・放課後子供教室の取り組み内容の充実などについて検討を行う必要がある。そのため、今後のこれらの教育支援体制や活動の在り方について検討を行う。

また、当協会の稲葉秀雄専務理事は7月、文部科学省の民間教育事業者における評価・情報公開等の在り方に関する検討会の委員に就任し審議に参画しています。同検討会の設立趣旨は次の通り。

民間教育事業者における学習の質の保証・向上の取組については、IS029990が発行されるなど、ますます活発化している。この状況等を踏まえ、文部科学省と経済産業省が緊密な連携を取りながら、民間教育事業者における評価・情報公開を始めとした学習の質の保証・向上の在り方に関する推進方を検討し、具体的な普及促進策等の総合的な支援方を講ずることとする。

# JJAご入会のご案内

全国学習塾協会（略称「JJA」）は、民間教育を担う団体・個人に関する支援及び能力開発、調査研究、地域社会に対する貢献の推進等を行うことによって児童及び青少年等の学力養成の推進に寄与し、より良い社会の形成を推進することを目的として設立された公益社団法人です。

公益社団法人全国学習塾協会には、どなたでも入会できます。

会員は、正会員・準会員・賛助会員からなっています。

**■正会員** 学習塾事業を営む法人または個人でどなたでも会員になることができます。正会員は総会での議決権を持ちます。

協会報、会員名簿を配布いたします。本会が主催する事業をご案内して、これに優先的に参加することができます。

協会 web サイトと正会員のホームページのリンクを掲載するとともに、会員名簿に正会員一覧を掲載します。

正会員証プレートを使用できます(使用料あり)。

**■準会員** 学習塾事業者に従事する個人、協会の目的と活動に賛同する教育事業に従事する個人または従事した経験のある個人であればどなたでも会員になることができます。総会での議決権は持ちません。

協会報、会員名簿を配布いたします。本会が主催する事業をご案内して、これに参加することができます。

準会員証プレートを使用できます(使用料あり)。

**■賛助会員** 協会の目的と活動に賛同してその事業にご支援くださる法人・団体・個人で、総会での議決権は持ちません。

協会報、会員名簿を配布いたします。本会が主催する事業をご案内して、これに参加することができます。

協会 web サイトと賛助会員のホームページのリンクを掲載するとともに、会員名簿に賛助会員一覧を掲載します。

賛助会員証プレートを使用できます(使用料あり)。

会費は次の通りです。

入会金	(1)正会員		30,000円	
	(2)準会員		10,000円	
	(3)賛助会員	法人		50,000円
		学校法人		30,000円
		団体		50,000円
個人			10,000円	



年会費	(1)正会員 1口	塾生数1000名未満	36,000円
		塾生数1000名以上	60,000円
		3000名未満	
		塾生数3000名以上	120,000円
	(2)準会員 1口		12,000円
	(3)賛助会員 1口	法人	50,000円
		学校法人	36,000円
		団体	50,000円
		個人	12,000円

毎年4月から翌年3月までが一年度になります。

会費について、正会員の方は、会費を3月と9月の年2回に分け、金融機関から預金口座振替により納入いただきます。

準会員・賛助会員の方は、年度初めに当協会の銀行口座にお振り込みいただきます。

入会初年度の会費は、入会月からの月割りで計算いたします。

入会をお考えの方、協会の活動概要などをお知りになりたい方は協会事務局まで遠慮なくご連絡ください。資料をお送り申し上げます。

また、入会申込書は協会 web サイトから入手することもできます。

公益社団法人全国学習塾協会 事務局  
〒171-0031 東京都豊島区目白3-5-11  
TEL03-5996-8511 FAX03-5996-9585